

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2690900499		
法人名	株式会社グランユニライフケアサービス		
事業所名	グランメゾン輪舞館京都羽東師 2階		
所在地	京都府京都市伏見区羽東師菱川町628-5		
自己評価作成日	令和4年3月15日	評価結果市町村受理日	令和4年6月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/26/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JiyvsovcId=2690900499-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/26/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JiyvsovcId=2690900499-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 京都ボランティア協会		
所在地	〒600-8127京都市下京区西木屋町通上ノ口上る梅湊町83-1「ひと・まち交流館 京都」1階		
訪問調査日	令和4年4月8日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

感染予防が続く一年であり思うようにできないことが多々ありましたが、ご利用者様の尊厳を尊重し日々生活をされる中で安心・安全に暮らして頂けるサービスの実施に職員一同努めております。その中で自粛や制限等があり、動きづらいこともありましたが新しい生活の形とらえ創意工夫を凝らし職員・ご利用者様が共存しあえる施設へとようになってきております。ご利用者様の体調管理・維持に努めるため地域資源を活用し努めるとともに職員の体調管理にも注視し見える化の表を用いて安心して働ける職場となっております。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グランメゾン輪舞館京都羽東師事業所は地域とは良好な関係を保ち、自治会の回覧板に営利目的でなかったらと、事業所の情報も一緒に回してもらっています。また、地域の方を対象に認知症サポーター養成講座の開催や小学生の施設見学で認知症の説明をしていましたが、コロナ禍で今は見送っています。現在は「おもちゃ病院」の開催や「古着のリユース」で古着衣類の回収ボックスを常設し、地域の人があつても利用できる風通しの良い事業所になっています。外出や面会が制限されている折、感染対策を充分にして「健康維持」のために地域周辺の散歩をしています。そして、家族との交流の機会を持つことを可能にするために玄関ドアの横にソファを置き、体温測定器を設置し、3回のワクチン証明を確認して厚生労働省の通達に沿った短時間の面会を実現されています。管理者はコロナ禍の中でも今後につながるために、何が出来るかを絶えず考え行動されています。職員間の人間関係も良く職員は「やらされている」ではなく、提案した意見が反映され、やりがいを感じて運営に参画できるようにしています。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに ○ 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている ○ 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが ○ 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	当社事業理念 ・自分らしく心豊かな生活・プロのサービス・共存共栄の理念にて質の高いサービス提供を実施し、将来自分が住みたい、家族・知人に住ませたい住宅提供をしています。	理念を玄関に掲示し、ホームページにも掲載している。毎朝職員全員が参加する朝礼で唱和し意識づけると共に、ユニット会議のカンファレンスの時に振り返り、利用者や家族の意向の尊重やプロ意識を持ったサービスの提供への自覚と誇りを持つことや、地域との共存共栄を目指し、コロナ禍の中で工夫をされている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域との繋がりに関して前年度より少ない中でも地域資源を活用し古着の無人販売・回収にて地域との交流に努めている。	町内が協力的で、民生委員始め自治会の役員も協力的で、自治会の回覧板に事業所からの情報を載せてもらっている。コロナ禍までは地域の方対象に認知症サポーター養成講座を開いていた。また、小学生を対象に認知症サポート講座の開催を予定していたが、見合わせている。古着のリユースへの協働や、おもちゃ病院も年2回開催するなど、地域に使っていない施設を開放している。これらの事業と利用者との交流はコロナ禍でできないが、今後を見通して、地域の人にとって、身近な事業所になれるように取り組まれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	本年度に関して地域貢献としては出来ていないが施設入居を検討されている方への問い合わせに関しては助言など積極的に行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議を開催することは困難ではありますが、包括・民生委員の方たちの協力ものと情報発信は出来ていると感じます。	メンバーを民生委員3人(自治連合会会長や副会長を兼務されている)地域包括支援センター職員で構成している。コロナ禍の中、書面開催で議題は利用者の状況や事故報告などを知らせて、運営の透明性を確保しているが、委員の方からの意見の収集や評価はされていなかった。また、家族・利用者はメンバーに加えられていなかった。	・家族・利用者を運営推進会議のメンバーとして、事業所運営への率直な意見を聞かれることを提案する。 ・書面開催時も委員の方からの率直な意見や評価を収集した議事録が望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	オンラインを活用し地域の情報・各施設の取り組みなどの共有はしております。	行政の担当課を訪ねて運営推進会議の議事録を手渡している。伏見区事業所連絡会は3ヶ月毎に開催され、オンラインで参加をして行政からの情報や核施設の取り組みを共有している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	一階のように感染予防の観点から来訪者がすぐに入れる状態ではないので施錠は無い。直接的な身体拘束は無い。気づかなところでの話し方による拘束にならないように日々努めている。	身体拘束適正化委員会は民生委員(3人)と久我の杜地域包括支援センターの職員、管理者、ケアマネジャー、ユニットリーダー、介護職員が参加して、3ヶ月毎に実施している。職員はユニット会議で報告を受け、押印している。身体拘束の研修は施設内全体研修で3ヶ月毎におこない、研修報告書を確認の上押印している。2階のユニットの出入り口は普段は鍵をかけていないが、利用者が不安定な時や職員の体制により、鍵をかけ対応することもあるが、最小限にし、利用者の不安になれる時間帯を把握して、それまでに仕事の段取りをつけて手の空くようにしている。職員は何気ない「ちょっと待って」の発言には気を付けて、敬語で話すことで、言葉が強くなるように心掛けている。気づいた時は職員同士で注意をし合える関係になっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	オープンで開けた場(食堂等)での生活をしていただけるように日々努力し、会議・研修などでの周知徹底・再度確認を行い防止に努めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修を受ける場は少なくなりましたが、オンラインを活用し会社全体で実施をしたりして学場を増やすように努めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	精神的(認知症)な対応と日々の生活の中で生活らしいことについての質問されることが多い。十分な説明と見学により理解して頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会の機会が減り直接の意見を反映する機会は少なくなりましたが、オンライン面会や職員手書きのお手紙によりご家族様へ情報を配信し意見などが言いやすい関係作りに努めています。	家族とは電話でのやり取りが多く、お互いに電話をするタイミングを気にしているので、着信履歴を入れておいて、電話をしてもらいやすくしている。利用者が必要な消耗品の購入を、今迄は家族に買って持って来てもらっていたが、家族からの希望で、事業所で購入し毎月まとめて引き落とすシステムに変更して喜ばれている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議を活用しご利用者様や職員の意見などを集約し提案する場を設けるとともに、日常的にもすぐに対応できる人間関係に努めている。	職員はユニット会議や日常生活の中で、リーダーやケアマネジャー、管理者に必用な物を提案している。職員からの意見は「〇〇をしたい」では却下で、「△△だから、こうしたい」「例示して、こうしていきたい」と具体的な意見が出た時は職員を後押しして、職員がやらされている感ではなく、主体的に運営に参画できるようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課を年二回実施し個々の意見を集約し平等な評価を実施。今後やりたいこと等を聞くことにより協力できる体制・支援を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	補助制度を活用し、資格取得、スキルアップできる体制を構築している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	感染予防を行い訪問することにより、見て得られる情報も多いので訪問は定期的に行っている。特に感染予防についての情報は取り入れられるものは即時取り入れている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	聞き取りもするが、まずは出来ることからして頂き、困難や苦手なことを把握し安心・安全に生活して頂けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	不安や今までの苦労したことを聞き取り、施設での生活にどう反映するのか、また新たに出てきた困っていることに関してもこちらから聞き取りし協力関係を築いている。。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	外部資源も活用し利用者にとって最適な方法を検討し実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の尊厳を守りながらともに暮らす共存共栄の暮らしに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族と対等な立場で本人に安全と安心を提供しご家族に安心して頂ける良好な関係に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	住んでいた場所・人との交流は困難であるが電話やオンラインを活用できる限り維持できるように努めている。	利用者から、生活の中で聞き取ったことは介護記録に記入している。今迄していた編み物やオセロを職員としている方もいる。入居まで一人暮らしの方が多く、家族からの把握が困難で、馴染みの関係は記録としてはあまり見られなかった。絵をかいたり、細かいことをすることが得意な方は、ぬり絵やパズル、ちぎり絵で桜の花びらを貼って桜の花を咲かせていき、作っていく内に美しくなる作品に喜ばれていた。	一人暮らしの方が多く家族からの把握が困難でご苦労されていることをお聞きしましたが、アセスメントで生活歴を聞いて記入されていたように、暮らし方の希望や馴染みの関係なども、早い時期に聞き取られ、途切れない支援を期待する。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	自然と集まれる居心地の良い場を作り、努め利用者だけでなく職員も関わり支え合える環境作りを努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も必要に応じて相談や提案をできるように努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いを実現するべく日常の様子を施設全体で随時共有し早急なものに関しては随時対応。今後検討が必要となる事柄に関してはユニット会議にて検討実施をしている。	利用者の思いや意向の把握は生活の中で把握できたことを介護記録に記入して申し送り時に共有し、利用者の意向に沿えるように検討している。意思表示できない利用者は、表情、行動に注意をし、不安になられる方はその理由や時間帯を把握するようにしている。(家族に聞くこともある)、分かったことは介護記録に記入し申し送りやユニット会議で共有し、利用者の意向に沿えるように検討している。	

京都府 グランメゾン輪舞館京都羽束師 2階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	言葉に表すことができる方が少ないので、行動や今までの習慣・サービスの利用内容をもとに適切なサービス提供に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	有する能力の見極めを日々の生活・記録から洗い出し、有する能力の維持、向上に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々、計画の内容が実施できているか記録に記入できる形になっており、本人にあった計画であるかを3か月ごとに見直し反映している。	入居前の面接でアセスメントをおこない、医療情報や入居前のケアマネジャーからの情報も含めてフェイスシートに記入している。サービス担当者会議を家族・利用者、ケアマネジャーで開催して介護計画を作成し交付している。入居後は毎月ユニット会議でカンファレンスをおこない、3ヶ月毎のモニタリングを評価表に記入している。再アセスメントはフェイスシートに追記とチェック表をおこない、サービス担当者会議を開催し、プランは3ヶ月ごとに見直しているが、必要時にも見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画の実施状況・日々の様子等を一日分を分かりやすい記録にしており各職員が情報を共有しやすいようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	感染予防対策として受診等には職員が柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の活用として外部での実施はできていないがマッサージ等、外部資源を活用し、身体能力維持に努めている。		

京都府 グランメゾン輪舞館京都羽束師 2階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の要望を基本に適切な医療を受けられるように努めている。	かかりつけ医は入居時に希望を聞いている。ほぼ全員が施設の協力医療機関である在宅医療専門の室町クリニックに変更している。月2回の訪問診療、看取りの時は24時間体制で往診可能である。訪問看護も月2回来られている。毎週訪問歯科の診察があり、希望者が受けている。月2回歯科衛生士の口腔ケアを受けている方もおられる。精神科や神経内科、眼科など専門的な医療は家族が受診に付き添い、必要に応じて職員も同行している。緊急時は職員が付き添って近隣の急性期病院で受診している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護を月二回、変化や気づきに柔軟に即時対応をしてる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院患者がいない時でも、定期的に病院を訪問し関係構築。良好な関係から早期の退院にもつながりやすく、入院期間・入院者を減らすように取り組んでいる。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に指針をもとに説明し、家族・本人の意向を十分に話し合い早期に確認することにより、協力機関とも連携し取り組んでいる。	「看取りに関する指針」を作成し、職員はターミナルケアの研修を受けユニット会議でも話し合っている。入居時に「終末期の看取り介護などについての確認書」にて終末期の過ごし方について本人と家族の思いを聞き取っている。また、その時期が近づくと医師の説明を受け、十分な話し合いをもって「看取り介護に関する同意書」に署名・捺印をもらっている。室町クリニックの協力を得てこれまで施設で2名の看取りを行った。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルをもとに各ユニットに掲示し随時対応できる体制にしている。看取り研修と合わせて緊急時の対応についても研修を実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回の避難・消火訓練を実施し、水害地域である為、水害時の避難訓練も実施している。	非常災害対策計画を策定し、災害の種類ごとにわかりやすいマニュアルを作っている。避難訓練は年2回、地震と火災、昼夜想定で行っている。うち1回は消防署の参加があるが、今年度はコロナ禍で来て貰っていない。訓練はキッチンからの出火想定で行い、1階は外に出て、2階はベランダに待機して助けて貰うようにしている。水害の際は立地的に外部に避難するより安全であると判断し、2階に避難することに決めている。近隣の職員が多く、災害時の連絡体制がしっかりしており、自宅からの所要時間や移動手段なども把握している。備蓄は5日分の食料、水などの他、排泄用品も日頃から多めにストックしている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	基本的に敬語で話すように心がけ人格を尊重するとともに、状況によって丁寧な言葉使いで和やかなアットホームな雰囲気もだし居心地良い場を提供している。	職員は毎年、接遇やプライバシーに関する研修で学んでいる。トイレの声掛けはジェスチャーで他の人に気づかれないようにし、排泄確認も周りに他の利用者がいない所で小声で聞き取るようにしている。二人介助の必要な方の入浴時は職員の出入りがあっても外から見えないように、入り口を背にして座っていただくように心掛けている。言葉使いで気になるときは職員同士で注意し合うようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	家事などはより積極的に実施して頂き、役割をもって頂き自己決定できるように心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースに合わせ臨機応変と言おうをしているが、決められた時間の援助には時間を守り、利用者には必ず来てくれる安心を提供している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人決定できる方は本人に。援助が必要な方には促すように心がけている。		



京都府 グランメゾン輪舞館京都羽束師 2階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	生活するうえで重要な部分であるので、積極的に実施して頂き職員とともに楽しく実施できるように努めている。	京都産の米、市場から届く新鮮な野菜を使って職員が調理し、利用者と同じものを一緒に食べている。包丁は難しくてもスライサーで野菜を切ってもらったり、下膳、洗い物、食器拭きなど利用者のできる事を見つけて参加してもらっている。おやつレクではベビーカステラやフルーチェなどを一緒に作っているケアマネジャーが管理栄養士の資格も持っているので、利用者の食事についての形態変更など迅速に対応することができている。飲用水は電解水素水を使用し、腸内環境にも留意している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	記録の内容、医療との連携から必要に応じた栄養・水分補給の支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	本人の口腔状態に合わせ衛生管理を実施するとともに訪問歯科とも連携して適時対応を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターン一覧表を活用し自立に向けた支援を行っている。	各自の排泄表をもとに排泄のサイクルを把握している。現場の職員からの提案で全利用者1カ月の排泄表を一覧にして見やすくした。一覧表にすることで、排泄の周期が捉えやすくなり、訪問診療、訪問看護にも情報を提供できている。その結果、排便のコントロールが適切に行われ、汚染される確率が減っている。布パンツに変更できた方もおられる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄を促すヨーグルトや歩行運動(散歩)を実施し自然な排泄にむけて日々取り組んでいる。		

京都府 グランメゾン輪舞館京都羽束師 2階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	衛生面も考慮し、本人の意向に沿えるように努め、入浴準備を本人がするように促している。	肌トラブル防止のため季節湯や入浴剤はあえて使っていない。入浴後の保湿には力を入れているため、粉をふいた肌の方は見受けられない。入浴は週2回、1対1介助で、両側に段差がある広い浴槽で半身浴でゆっくり楽しませている。浴槽は自動で循環が出来る設備になっている。入浴拒否の方は最初に誘い、拒否されたら最後に再度声がけするようにし、湯上りの人を見たら入る気分になられ成功している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中での休息を自由にとっていただくようにしているが、夜間帯に影響が出ないように見守りして声かけを行い安心して眠れるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	訪問診療と連携をとり、服薬による体調の状態を随時報告し過剰とならないように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人からの要望もくみとり日々の生活の中に役割が出るように努め、掃除や家事など生活をしてるからこそそのできる素晴らしさをもってもらえるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご近所への散歩の実施以外はなかなか外に出ることは困難であるが、今後の課題として外出の支援を実施していきたい。	コロナ禍で以前のようにみんなで散歩に出るのではなく、マンツーマンや車椅子も利用して近くの公園や住宅地の中に散歩にでかけ健康維持や気分転換に努めている。また、玄関前に椅子を出してお茶を飲んだりして楽しんでいる方も見られる。季節を楽しみに、近隣の小学校や中学校の桜並木を観に出かけることもある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現状では使う場を利用することは困難であるが、訪問販売などを利用し使う場を提供していきたい。		

京都府 グランメゾン輪舞館京都羽束師 2階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙の対応は随時行い対応している。手紙や送らr多写真を職員にみせて説明され喜んでおられる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用部においても生活感を大事にして感染予防も考慮し居心地の良い空間作りに努め、利用者がいつも集まっている。	リビングの大きい窓からは畑が見渡せ開放感がある。フロアの掃除は手すりを拭いたり、床のモップ掛けなど利用者と職員が一緒にしている。換気は窓の開閉で行い、加湿器と空調、空気清浄機で居心地良くしている。また、台の上やテーブルは物をしまい込まず、あえて出しておくことによって生活感を出すようにしている。壁には利用者と一緒に作った桜の壁面飾りが貼られていて季節感が感じられる。利用者の写真をフロアの入り口に飾っている。車いすやシルバーカー、手引きでの移動時の動線を考え、安全面を配慮してテーブルや椅子を配置している。	利用者の写真が飾られ、ほほえましく感じられました。職員の写真も同じように掲示されてはいかがでしょうか。面会に来られた家族にもその場にはいない職員も知ってもらえるので、お勧めする。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ある程度席の配置は決まっているが気の合った方同士で過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室に関しては本人・家族の思いを尊重しレイアウトされている。気の合った方が居室に招かれることもあることもある。	居室の入り口には職員がそれぞれの利用者をイメージして制作した表札がかけられ、利用者を大切にされているのが感じられる。居室のレイアウトも職員と利用者で話し合っ決めていく。家族には愛用されていた家具等で、地震で倒れても危険がない高さのものや利用者が移動の時に持てるものを依頼している。座椅子やテーブルなども持ち込まれている。ベッドでやすまれる方が殆どだが、自宅で畳の生活をされていた方は絨毯を敷いて布団を利用されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共用部及び自室にはわかりやすく表示をして自由にかつ安全に日々の生活を送って頂けるように配慮している。		